

3D 超音波を用いた胞状卵胞数評価に関する検討

1)勝 佳奈子,1)松岡 麻理,1)重田 護,1)太田 志代,1)北山 利江,1)門上 大祐,1)中岡 義晴

2)森本 義晴

1)IVF なんばクリニック 2)HORAC グランフロント大阪クリニック

【目的】胞状卵胞数 (AFC) は、AMH や基礎ホルモン値と並び卵巣予備能評価のための重要な項目である。AFC 評価は超音波検査で簡便におこなえる一方、従来の二次元超音波 (2DUS) ではその所見から検者が AFC の評価をするため、計測誤差がおきやすい。そこで今回、三次元超音波(3DUS)で自動計測プログラムを用いた AFC 計測をおこない、その有用性を検討した。

【方法】70 症例で 2DUS での AFC 計測結果および、3DUS で自動計測による胞状卵胞径の設定を上限は 8mm で固定し、下限を 4mm 以上(AF4-8)、3mm 以上 (AF3-8)、2mm 以上 (AF2-8) で計測結果の比較をおこなった。また、調節卵巣刺激周期 34 症例で、卵巣刺激開始時の AFC を 3DUS で評価し、採卵数との比較をした。

【結果】AF4-8 と 2DUS では AFC に有意差はみられなかったが、AF3-8 および AFC2-8 は 2DUS と比較し有意に AFC が多くカウントされた。AFC と AMH の相関係数 R は、AF4-8 : R=0.57、AF3-8 : R=0.65、AF2-8 : 0.52 で、3mm 以上 8mm 以下の AFC 計測でより AMH と強い相関関係がみられた。調節卵巣刺激周期では、採卵数との相関係数 R は AMH : R=0.54、AF4-8 : R=-0.15、AF3-8 : R=0.24、AF2-8 : R=0.04 であった。

【結論】3DUS を用いた AFC 計測は、測定基準を一定に設けることができ、自動計測と検者のダブルチェックが可能な点において有用な検査である。調節卵巣刺激では、AFC や AMH 単独では卵巣刺激に対する反応を予測できるとは限らず、卵巣刺激法やゴナドトロピン投与量の決定をする際には複数のバイオマーカーを参考にすることが重要であり、そのひとつとして 3DUS による AFC 評価を今後も活用していきたい。